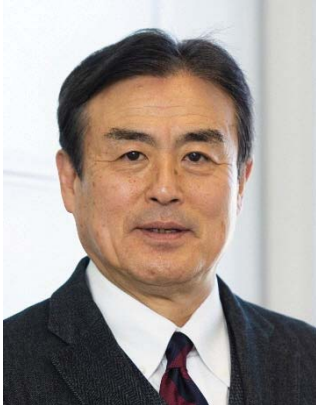


2026アジア競技大会 NAGOYAビジョン

— アジアとともに輝く未来へ —



《特別寄稿》



第20回アジア競技大会
名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会 座長
早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授
一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長

原田 宗彦 氏

NAGOYAビジョンに寄せて

現代社会において、アジア競技大会のような大規模スポーツイベントには、開催都市のスポーツ振興だけでなく、都市が抱える社会課題を解決し、住み良いまちをつくる「触媒」としての力が備わっています。よって2026年の大会に向けた準備段階では、その力を利用して、名古屋市というまちをどのように発展させるのかについて、しっかりとした構想を練る必要があります。NAGOYAビジョンは、それぞれの領域の専門家が知恵を絞り、SDGsが目標とする2030年に向けて、名古屋市のあるべき姿を描いたものです。そこでは、活力ある地域で市民が健康に生活し、都市の魅力に誇りを持ち、国際交流と多様性を積極的に受容し、イノベーションとテクノロジーによって持続可能な都市へと発展する道筋が示されています。

都市には目標が必要です。本ビジョンに描かれているまちの姿を実現するため、アジア競技大会を成功させ、そのレガシーを正しい方向に導くことが大切です。有識者会議の座長として、2026アジア競技大会に向けた本ビジョンが、名古屋市をさらなる発展に導く道標になることを心から願っています。

目次

1	2026アジア競技大会NAGOYAビジョンとは	1
	(1) ビジョンの意義	1
	(2) ビジョンの位置づけ	1
	(3) 持続可能な開発目標（SDGs）との関係	2
2	アジア競技大会を契機としてめざすまちの姿 （NAGOYAビジョン）	3
	(1) 健康・地域活力	5
	(2) 魅力・誇り	9
	(3) 国際交流・多様性	15
	(4) イノベーション・持続可能性	19
参考1	第20回アジア競技大会	25
参考2	本市を取り巻く状況の変化	27
参考3	用語解説	31
参考4	策定の経緯	34

1 2026アジア競技大会NAGOYAビジョンとは

1 | ビジョンの意義

令和8（2026）年に本市及び愛知県において開催される第20回アジア競技大会は、本市が今まで経験したことの無い規模の国際総合スポーツ大会です。

期間中には、過去大会の実績から、選手、監督、コーチなどといった大会関係者約1.5万人、観客約150万人がこの地域を来訪すると見込まれており、本市では、アジア競技大会を一過性のスポーツイベントで終わらせるのではなく、大会の開催効果をスポーツの振興をはじめ、交流人口の拡大、国際交流の促進、共生社会の実現、国際競争力の強化など、さまざまな分野につなげていくことが必要と考えています。

本ビジョンは、大会終了後の2030年頃を見据え、大会の開催を契機として本市がめざすまちの姿を明らかにするために策定しました。

2 | ビジョンの位置づけ

本市のまちづくりの大きな方向性を示す、最上位の計画である「名古屋市総合計画2023」においては、令和8（2026）年の第20回アジア競技大会の開催と令和9（2027）年のリニア中央新幹線の開業を重要な柱と位置づけ、長期的展望に立った上で、本市のめざす都市像を描くとともに、その都市像の実現に向けて取り組む施策を明示し、市政を総合的かつ計画的に運営していくこととしています。

本ビジョンは、第20回アジア競技大会の成功とその先を見据え、大会を契機として本市がめざすまちの姿を明らかにするものとして「名古屋市総合計画2023」と整合をはかりながら一体的に検討を進めるとともに、各局室の関係分野にかかる個別計画との整合を考慮して策定したものです。また、愛知県が策定した「アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン」とも連携をはかっています。

なお、めざすまちの姿や取り組みについては、今後進捗状況を把握し、必要に応じて見直しを行います。



3 | 持続可能な開発目標（SDGs）との関係

国際連合では、第70回国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、SDGsの17の目標それぞれの達成に向けた課題に取り組む潜在的能力を備えた重要かつ強力なツールとして、スポーツがその役割を果たすことを期待し、以下のように記載しています。

スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発及び平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。

国内においても、スポーツ庁が平成30年9月に策定した「スポーツ国際戦略」では、スポーツを通じて国際連合がSDGsに掲げる社会課題の解決に対して最大限の貢献をしていくことを目指すことを目標としています。

加えて、スポーツを通じた社会づくりというコンセプトのもと、

◇スポーツは人種、言語、宗教等を越えて参画でき国境を越え人々の絆を育む

◇スポーツは平和と開発に貢献し困難に直面した人の生きがいとなり、スポーツを手段とした持続可能や経済成長・雇用・地域振興にも貢献しうる

◇スポーツは他者への敬意や規範意識を高め公正な人格形成に寄与する

といったスポーツの重要な特徴である人を巻き込む力によって、「多様性を尊重する社会」「持続可能で逆境に強い社会」「クリーンでフェアな社会」の達成に、スポーツの国際展開により貢献することが、「スポーツ国際戦略」のビジョンとして示されています。

こうしたスポーツを取り巻く国際的な潮流に鑑み、第20回アジア競技大会を契機としてめざすまちの姿を明らかにする本ビジョンにおいても、SDGsの理念「誰一人取り残さない」を踏まえて策定しました。

SDGsとは

SDGsとは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成されています。

2030アジェンダに関するホームページはこちら



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2026 アジア競技大会を 契機として めざすまちの姿

CONCEPT [コンセプト]

夢や希望をはぐくみ、 誰もが自分らしく生きる

- ◆アジア最大のスポーツの祭典を通じて、
かけがえのない記憶と感動が夢と希望をはぐくみ、
誇りと活力に満ち溢れた都市の姿を
未来へつなぎます。
- ◆住む人も、訪れる人も、
誰もが自分らしく生きるまちをめざします。

アジアとともに歩み、 更なる飛躍を遂げる

- ◆SDGsの理念を踏まえるとともに、
アジアをはじめとする世界の人々との
相互理解を推進し、
アジアとともに歩む姿を示します。
- ◆大会への取り組みを本市の飛躍へつなげ、
持続的に発展する国際都市をめざします。

1

健康・地域活力
P.5



2

魅力・誇り
P.9



リニア開業により更に拠点性の向上が
期待される広域的ネットワークの中心



多くのトップ・スポーツ
チームのホームタウン



魅力的な観光資源と
拡大する交流人口





3
国際交流・多様性
P.15

4
イノベーション・
持続可能性
P.19



第20回アジア競技大会の開催
2026年 9月19日(土) — 10月4日(日)



名古屋市が持つポテンシャル



世界レベルの産業技術の
集積による強い経済力



便利で快適な
住みやすいまち



多様な外国人が在住



スポーツにより、市民が健康に暮らし、地域の活動が盛んになることで、活力ある都市になっている

アジア競技大会を契機として、躍動するアスリートの姿を観ることでスポーツへの関心がより高まり、大会で実施されるアジア特有の競技を含む多種多様なスポーツを知ることでスポーツは競技だけではなく、散歩やダンス、健康体操、サイクリングなど文化としての身体活動を意味する幅広い概念であり、一部の人のものではない「みんなのもの」という意識が浸透し、スポーツを日常生活の中に位置付けることができるようになっていきます。

このように、スポーツは年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず誰もが参画できるものであり、すべての人がその適性や関心に応じて、楽しみながら日常的・自発的に身体活動を含むスポーツに継続して親しむことで、子どもの健やかな心身を育むとともに、生活習慣病の予防・改善や介護予防に繋がり、市民の心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現し、健康長寿が実現したまちとなります。

また、スポーツ大会やトップアスリートとの交流、各種イベントの実施、さらには、ボランティアをはじめとする市民活動への参加意欲の高まりによる市民の社会貢献が定着することで、地域の一体感が高まり、活性化され活力に満ちたまちが実現しています。

■ 取り組みの方向性

- 1 アクティブライフの推進、健康増進
- 2 子どものスポーツの充実
- 3 地域活性化、市民活動の促進

FUN+WALK PROJECT

どうせ歩くなら「楽しく歩きましょう」。スポーツ庁では、働き盛りの人に「歩きやすい服装」で通勤・勤務するプロジェクトに取り組んでいます。また、楽しく歩ききっかけづくりとなる「アプリ」（歩数に応じたゲーム機能やクーポン獲得）も提供しています。

毎日の通勤を少し工夫することで、一日の滑り出しがスムーズになり、ついつい歩いてしまうこともあるかもしれません。この「ついつい」が大切なのです。「気持ちがよく気がつけば歩いていた」となれば、その習慣はきっと長続きするでしょう。

スポーツ庁では、働き盛りの方のスポーツ参画人口拡大を通じて国民の健康増進を図る官民連携プロジェクト「FUN+WALK PROJECT」を推進しています。歩くことをもっと楽しく、楽しいことをもっと健康的なものに変えていく本プロジェクトにおいて、スポーツ参画人口の拡大を通じて国民の健康増進を目指しています。

（引用：スポーツ庁Web広報マガジン「DEPORTARE」～数字でみる！たった「10」分プラスで病気が防げる？）

歩くことを「もっと楽しく」に変えていくプロジェクト
FUN+WALK PROJECT



スポーツ庁Web
広報マガジンのホ
ームページはこちら



■ 取り組みの方向性

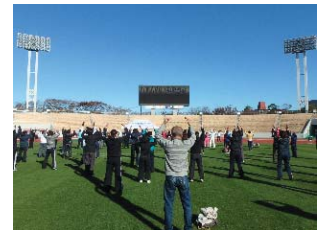
1 アクティブライフの推進、健康増進

大会の開催により、市民にとってスポーツが身近なものであるという意識が浸透し、誰もが生涯にわたって気軽に楽しく身体活動を含むスポーツに親しみ、活動的で充実した生活を送ることができる土壌を創出することで、より多くの市民の習慣的な身体活動を促進し、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じた健康寿命の延伸をはかります。

○主な取り組み

スポーツ実施機会の提供【教育委員会】

より多くの方に運動・スポーツに親しみ、楽しみ、ささえる機会を提供するため、本市で活動しているトップスポーツチームなどの関係団体と連携協働し、スポーティブ・ライフ月間、市民スポーツ祭等の大会・イベントを実施するとともに、将来のスポーツの担い手であるアスリートへの支援を実施します。



スポーティブライフ in 瑞穂

障害者スポーツセンターの運営【健康福祉局】

障害者の社会参加の促進のため、本市における障害者スポーツの拠点として、スポーツ参加の機会と、健康づくりから競技水準の向上まで幅広いニーズに対応できる質の高いサービスを提供します。



車いすテニスの練習風景

健康増進事業及び受動喫煙対策の推進【健康福祉局】

市民の健康寿命の延伸及び生活の質の向上をはかるため、栄養・食生活、身体活動・運動などに関する支援、普及啓発などの健康増進事業を総合的に推進するほか、受動喫煙を防止するための対策を推進します。



「健康ミニナルBook」と喫煙時の配慮義務ポスター

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策3	生涯にわたる心身両面の健康づくりを支援します
施策10	生涯にわたる学びやスポーツを通じた生きがいづくりを支援します
施策27	歩行者や自転車にとって安全で快適な道路環境を確保します

2 子どものスポーツの充実

大会を通じて、トップアスリートたちが不断の努力を重ね、活躍する姿を間近に見ることで、子どもたちがスポーツの素晴らしさを感じ、スポーツへの関心を高めるとともに、大会で行われる多様な競技を知ることによってスポーツが身近で楽しいものであるという意識が浸透します。

そうした経験を通じて、子どもが身体活動を含むスポーツを楽しむことで心身ともに健全に発達・成長し、生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるよう、運動習慣の確立をはかるとともに、学校での体育活動や地域における運動機会の充実に取り組みます。

○主な取り組み

小学校部活動のあり方検討（部活動の振興（小学校））【教育委員会】

児童のスポーツへの関心を高めるとともに、豊かな心と健やかな体の育成に向けて、部活動の充実と活性化をはかるため、部活動顧問・外部指導者の派遣を実施するとともに、教員が指導しない小学生の放課後における運動・文化活動の新たな仕組みを構築します。



放課後の部活動

元気いっぱいなごやっ子の育成事業【教育委員会】

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現や体力・運動能力の向上に向けた取り組み、学校給食を通じて食生活に必要な知識と判断能力を育むことなどを通して、運動習慣や早寝早起き・朝食の摂取などの望ましい生活習慣を形成します。



元気に遊ぶなごやっ子

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策14	子どもの個性を大切に、幅広い学力と豊かな心、健やかな体を育みます
------	----------------------------------

日本で一番子どもを応援！

本市では、子どもは生まれながらにして一人ひとりかけがえない存在であるという認識のもと、子どもの権利を保障するとともに、さまざまな悩みや心配を抱える子どもや親を総合的に支援するため、子どもの目の進路にとどまらず将来の針路を応援し、子ども自身が自分で職業だけでなく生涯を通じたライフプランを描けるよう発達段階に応じた支援に取り組むなど、子どもの尊厳を守り、子どもが健やかに成長できる社会の実現に向けて取り組んでいます。



ナゴヤ子ども応援
大綱に関するポ
ムページはこちら



3 地域活性化、市民活動の促進

大会を契機として、スポーツを地域の魅力やまちづくりの核とすることで地域の活性化をはかるため、東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウンの取り組みや本市を拠点とするトップ・スポーツチームとの連携を通じて、トップアスリートと市民との交流を促進します。

また、アジア競技大会をはじめとした大規模競技大会におけるスポーツ・ボランティアなどスポーツをささえる機会への参加を通じて、市民活動への関心を高め、身近な地域活動に主体的に関わる機運を醸成します。

○主な取り組み

東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業【観光文化交流局】

スポーツを活かした名古屋の魅力を創出・発信するとともに、世界レベルのアスリートと市民との交流をはかりスポーツに親しみ、楽しむ機会を提供するため、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウンとして、相手国であるカナダ、フランス、ウズベキスタンとの交流事業を産学官民が連携して実施します。



カナダ車いすバスケットボール代表チーム事前キャンプ

地域コミュニティ活性化の推進【市民経済局】

地域コミュニティの活性化をはかるため、地域団体等への参加を促進するほか、コミュニティサポーターの派遣、大学等との連携強化や若い世代の地域活動への参加など地域活動に対する支援を実施します。



地域団体交流

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策39	スポーツを活かしてまちの魅力と活力を高めま ^す
施策44	地域主体のまちづくりを進めます

○まちの姿の実現に向けた成果指標

成果指標	現状値	目標値 (2030年度)
健康寿命	男性 79.39年 女性 83.70年 (平成29年)	平均寿命の延びを上回るよう延伸
運動をすることが好きな子どもの割合	小 64.1% 中 54.2%	小 68% 中 58%



スポーツにより、都市のブランドが確立するとともに、名古屋の魅力が国内外に発信されることで、にぎわいあふれ市民が誇りをもてる都市になっている

アジア競技大会の開催を契機に、継続的な大規模スポーツ大会の誘致やトップアスリートの輩出につながり、スポーツが新たな都市ブランドのひとつとして国内外から認識され、市民が世界的なスポーツイベントを身近に体験することで、名古屋に対する市民の誇りと愛着が高いまちとなっています。

また、アジア競技大会の開催を契機に、スポーツにとどまらず、歴史・文化などの名古屋の魅力が国内外に発信されることにより、本市への来訪を目的とした旅行者が増加し、にぎわいにあふれるとともに、大会を契機としてホスピタリティが向上し、本市を訪れる人を受け入れる環境が整った来訪者へのおもてなしが充実したまちが実現しています。

■ 取り組みの方向性

- 1 スポーツを活かした魅力の創出・発信
- 2 大規模競技大会・イベントの誘致・開催
- 3 アスリートへの支援
- 4 名古屋が有する魅力資源の発掘・向上・発信
- 5 インバウンドの促進、受入環境の整備

にっぽんど真ん中祭り～名古屋の夏の風物詩～

日本のだ真ん中、真夏の名古屋を舞台に繰り広げる日本最大級の踊りの祭典にして、国内外から集結する約 200 チーム 23,000 人が地域色豊かな踊りを披露する、誰でも参加できる市民参加型の新しいスタイルのお祭りです。

3 日間の来場者数は約 200 万人の観客動員を数え、名古屋の街は華やかなお祭り一色になります。それぞれのチームが情緒ある地域文化をリズムカルにアレンジした音楽にのせて、華やかな衣装や目を見張るほどの演出を繰り広げます。

「観客動員ゼロ＝全員参加型」の祭りをコンセプトに掲げるどまつり。中でも参加者も観客も一緒に踊りが楽しめる、どまつり名物「総踊り」では、2010年にギネス世界記録™ "世界一の総踊り"として認定されました。



にっぽんど真ん中
祭りホームページ
はこちら



■ 取り組みの方向性

1 スポーツを活かした魅力の創出・発信

大会の開催成功が、市民にとっての誇りの一つとなるとともに、これまで積み上げてきた名古屋のブランド力に加え「スポーツ」が本市のイメージを構成する新しい魅力の一つとなり、市内に拠点を置くプロスポーツチームが多く存在するなど本市が有するスポーツコンテンツを活用したスポーツプロモーションやスポーツツーリズムを促進することで、本市の魅力の創出・発信につなげます。

○主な取り組み

スポーツを活かした魅力の創出・発信【観光文化交流局】

スポーツを通じて都市魅力を向上させるため、スポーツツーリズムを推進するとともに、パブリックビューイングの開催支援など、スポーツを活用した市中心部でのにぎわいづくりを推進します。



パブリックビューイング

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策37	歴史・文化芸術に根ざした魅力向上をはかるとともに、市民による魅力発信を促進します
施策39	スポーツを活かしてまちの魅力と活力を高めます

2 大規模競技大会・イベントの誘致・開催

大会の開催に向けて、多くの市民や民間事業者などが幅広く参加できる多様な取り組みを通じて、名古屋のまち全体で一体となって機運を醸成し、大会の成功に寄与します。

また、アジア競技大会を開催する本市をスポーツコンベンションの場として位置付けて、国内外にプロモーションし、大規模競技大会・イベントの誘致・開催を行うことで都市ブランドの向上や都市活力の活性化につなげます。

○主な取り組み

国際競技大会等の誘致・開催【教育委員会】

スポーツを通じて国内外に名古屋の都市魅力を発信していくとともに、世界レベルのアスリートと市民との交流をはかりスポーツに親しみ・楽しむ機会を提供するため、関係団体と連携協働し、世界規模のマラソンフェスティバルを開催するとともに、国際競技大会等の誘致を推進します。



マラソンフェスティバル
ナゴヤ・愛知

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策38	観光の振興・ ^マ ^イ ^ス M I C E の推進と情報発信により交流を促進します
施策39	スポーツを活かして ^い まちの魅力と活力を高めます

3

アスリートへの支援

大会コンセプトの一つである「アスリートファーストの視点」を持ち、アスリートを支える環境を整えるとともに、アジア競技大会をはじめとする国際大会で活躍する地元出身の選手の養成に向けて、将来トップアスリートとなり得るジュニア選手への支援を関係団体と協力しながら行います。

○主な取り組み

あいちトップアスリートアカデミー（スポーツ実施機会の提供）【教育委員会】

アジア競技大会の盛り上げをはかるとともに、スポーツを活かしたまちの魅力と活力の向上に寄与する事業として、第20回アジア競技大会をはじめとする国際競技大会で活躍できる地元選手の発掘及び育成を推進します。

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策10	生涯にわたる学びやスポーツを通じた生きがいづくりを支援します
------	--------------------------------

4 名古屋が有する魅力資源の発掘・向上・発信

スポーツだけでなく、文化の祭典でもあるアジア競技大会において、本市を訪れる人が、スポーツにとどまらず、歴史・文化・芸術・エンターテインメントなど国内外に誇る魅力を体感できるよう、本市が有する魅力資源の磨き上げや掘り起こしを進めるとともに、戦略的な観光プロモーションを推進し、本市の魅力を世界に向けて発信します。

○主な取り組み

名古屋城の魅力向上（名古屋城の整備・名古屋城の魅力向上事業） 【観光文化交流局】

名古屋城の魅力を向上させるため、戦災により焼失した天守閣を史実に忠実に木造復元するほか、石垣や二之丸庭園の保存整備等を実施するとともに、民間事業者のノウハウを活用した多彩なイベントの開催などを実施します。



名古屋城

堀川の再生【緑政土木局】

名古屋城築城とともに開削された堀川では、都心の貴重な水辺空間として、市民団体との協働による水質浄化の取り組みなどにより、良好な水辺環境の形成をはかるとともに、オープンカフェやイベントを実施するなど、水辺空間の利活用によるさらなる魅力づくりを推進します。



屋形船による堀川クルーズ

名古屋フィルハーモニー交響楽団の活動支援【観光文化交流局】

名古屋フィルハーモニー交響楽団の認知度向上をはかるとともに、一層市民に親しまれ、誇れるオーケストラとなることをめざし、演奏活動を支援します。



名古屋フィルハーモニー交響楽団

コスプレホストタウン等の推進【観光文化交流局】

コスプレホストタウンPR隊などによる市民への啓発、受入機運醸成をはかるとともに、コスプレ・アニメの情報の集約・提供などを行うコスプレコンシェルジュの運営などを通じて誰もがコスプレを楽しめるまちを推進します。



世界コスプレサミット

東山動植物園の再生【緑政土木局】

名古屋のデスティネーションとして世界に誇れる東山動植物園をめざすため、展示、環境教育、種の保存、調査研究を強化推進します。



イケメンゴリラ「シャバーニ」

シビックプライド醸成に向けたプロモーションの推進【観光文化交流局】

低迷する市民推奨度を向上させるため、名古屋駅周辺や名古屋城・文化のみちなど本市の魅力資源が集積するエリアを題材とした、誇りや愛着につながる情報を市民に効果的に発信するプロモーションを実施します。



名古屋駅周辺ビル群と名古屋城

なごやめし～みんなに愛されるご当地グルメ～

「なごやめし」は、名古屋及びその近郊で広く受け入れられ、愛されてきたこの地域独特のメニューです。バリエーション豊かな点が大きな特徴で、代表的なメニューとして「味噌煮込みうどん」、「ひつまぶし」、「味噌カツ」、「手羽先」、「きしめん」、「あんかけスパ」、「ういろう（ういろ）」などがあります。特に、大豆と塩だけを原料とする豆味噌を使った、旨みの濃い料理が多いことが特徴です。

「なごやめし」という言葉は、平成12（2000）年に名古屋の飲食店企業が東京に進出した際、名古屋の郷土料理を取材しに来た東京のマスコミと飲食店企業のやりとりのなかで生まれました。

平成17（2005）年に開催された愛・地球博を契機として全国的に認知度が上がったことを受け、平成27（2015）年、「なごやめし普及促進協議会」を設立し、「なごやめし」のPR及びその魅力を活用した国内外からの観光客の誘致に積極的に取り組んでいます。

なごやめし普及促進協議会ホームページはこちら



○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策35	港・水辺の魅力向上をはかります
施策36	魅力的な都市景観の形成を進めます
施策37	歴史・文化芸術に根ざした魅力向上をはかるとともに、市民による魅力発信を促進します
施策38	観光の振興・M I C E の推進と情報発信により交流を促進します

5 インバウンドの促進、受入環境の整備

戦略的なシティプロモーションを推進し、国内のみならず世界中から本市を目的地（デスティネーション）として選んでもらうとともに、本市をゲートウェイとして日本各地を訪れてもらえるよう、インバウンドの促進に取り組み、交流人口の増加をはかります。

また、国内外から訪れたすべての人がストレスなく、快適に滞在し、観光を満喫できるよう、ハード・ソフト両面から受入環境の整備を進めます。

○主な取り組み

インバウンドの促進（海外からの観光客誘致の推進、高級ホテルの立地促進、ナイトタイムエコノミーの推進）【観光文化交流局】

海外からの観光客の誘致を促進するため、名古屋の観光魅力を活かしたプロモーション事業を実施するとともに、他自治体等と連携した広域観光を推進します。

あわせて、大規模な国際会議等のMICE及び富裕層旅行者の誘致につなげるため、質の高い宿泊施設の立地促進施策や、主に訪日外国人旅行者を対象とした夜間の観光消費額拡大のため、ナイトタイムエコノミーの推進に取り組みます。



オアシス 21

中部国際空港の機能強化及び利用促進【総務局】

国際的・広域的機能を強化するため、中部国際空港の完全24時間化の実現やLCC就航の増加を見据え、二本目滑走路をはじめとする空港の機能強化を推進します。あわせて、関係団体とともに空港の利用促進や航空会社へのエアポートセールスなど、航空路線の拡充に向けた取り組みを実施します。



中部国際空港
(中部国際空港株式会社提供)

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策33	世界に誇れる都市としてふさわしい都心機能・交流機能を高めます
施策38	観光の振興・MICEの推進と情報発信により交流を促進します

○まちの姿の実現に向けた成果指標

成果指標	現状値	目標値 (2030年度)
第20回アジア競技大会（愛知・名古屋開催）の市民認知度	31.8%	100%
外国人宿泊者数	165万人 (平成29年)	520万人 (令和12年)



大会で、アジアをはじめとした諸外国や多様な人々との交流や理解が深まることで、豊かな国際感覚を備え、多様性に理解を示す市民が増えるとともに、国際社会で活躍する人材が育ち・集う、開かれた都市になっている

アジア競技大会を契機に、スポーツや文化など幅広い分野で国際交流や国際貢献を推進することにより、過去にアジア競技大会を開催した都市などアジアをはじめとする諸外国との都市間ネットワークが強くなっています。

将来を担う若者たちが、諸外国の人との出会いや交流を通じて、国際感覚と世界に挑戦する意欲を高め、国際社会に貢献できるグローバル人材として成長しています。また、グローバル社会の中で夢をもって人生をたくましく生きる子どもが育成されるとともに、世界で活躍する人材が国内外から集うまちとなっています。

さらに、年齢、性別、障害の有無、国籍、宗教、文化的差異などを超えた多様な交流により、市民の豊かな国際感覚が養われ、多様性への理解が深まり、互いに支え合うことによって、すべての市民が暮らしやすい共生社会が実現しています。

■ 取り組みの方向性

- 1 国際交流の推進
- 2 グローバル社会の中で活躍できる人材の育成・確保
- 3 共生社会の推進

アジアとの交流

本市では、アジアをはじめとする外国諸都市との交流を促進するため、分野を特定した都市間の連携を行う新たな都市間提携（パートナー都市連携）を推進しています。

【パートナー都市連携指針より】

<目的>

○アジアをはじめとする外国諸都市と分野を特定した都市間の連携を行います。

<内容>

○包括的な交流でなく、特定の分野において実益をもたらすものとします。

○特定分野の交流を行うとともに、交流の発展をめざした新たな分野における交流を検討していきます。

○継続的かつ将来的な発展が見込まれるものを対象とします。

パートナー都市連携の促進
に向けた取り組みに関する
ホームページはこちら



タシケント市（ウズベキスタン）との交流会

■ 取り組みの方向性

1 国際交流の推進

大会を契機として、国際的に開かれたまちとなるため、アジア競技大会の先催都市やアジアの諸都市との都市間交流を推進します。

また、日本有数の大学の集積地であり、市内の大学からノーベル賞受賞者を多数輩出するなど高等教育機関が充実しているとともに、自動車をはじめ、航空機やロボットなどさまざまな分野で世界レベルの産業技術が集積する日本のものづくり産業の中核となっているといった本市の持つポテンシャルを活かし、大学や産業界が主体となったアジア諸国とのさまざまな分野での交流や国際貢献活動を促進するなど、産・学・官が一体となって、目覚ましい発展を遂げるアジア諸国とのさらなるネットワーク強化に取り組みます。

○主な取り組み

外国諸都市との交流推進【観光文化交流局】

外国諸都市とのつながりを深め、市民の国際感覚の醸成をはかるため、幅広い交流を通じて両市民の相互理解と友好親善を促進する姉妹友好都市交流と、アジアを中心とした都市と分野を特定した交流を行うパートナー都市交流を推進します。



名古屋まつりのパレードに参加する姉妹友好都市親善使節団

市立大学における学生・研究者の海外相互交流の推進【総務局】

関係機関等と連携し、地域の国際化に貢献するため、留学生の積極的な受け入れや学生の派遣・留学の促進により、国際感覚豊かな人材の育成と研究者の派遣・受け入れを促進します。



留学生懇親会

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策34	国際的に開かれたまちづくりを進めます
------	--------------------

2 グローバル社会の中で活躍できる人材の育成・確保

大会を契機として、大学や企業と連携して最先端技術を学び、国際社会で通用する知識とコミュニケーション能力を身に着けた次世代を担うグローバル人材を育成するとともに、世界で活躍する人材が本市へ集うよう取り組みます。

あわせて、社会や人生をより良いものにしようと自ら考え、多様な他者と協働していくことのできる、新しい時代に求められる資質・能力が育まれるよう、子ども一人ひとりの個性を大切にしたきめ細かな教育を推進します。

○主な取り組み

グローバル・エデュケーション・センターの運営【教育委員会】

グローバル社会において活躍することができる人材を育成するため、国内外の企業や大学、研究機関等と連携し、グローバル環境の実体験等ができるグローバル・エデュケーションセンターを運営します（教育館2階に開設）。



教育館

市立高校生の海外派遣【教育委員会】

グローバルな視野を持つ人材を育成するとともに、外国語によるコミュニケーション能力の向上をはかるため、市立高校生の海外派遣を実施します。



マレーシアの幼稚園にて

画一的な一斉授業からの転換を進める授業改善【教育委員会】

基礎的な学力の確実な定着と、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びの実現に向けて、すべての児童生徒に対し、一人ひとりの進度や能力、関心に応じた個別最適化された学びを提供するための授業改善を推進します。



教員研修会でのグループディスカッション

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策14	子どもの個性を大切にし、幅広い学力と豊かな心、健やかな体を育みます
------	-----------------------------------

3

共生社会の推進

大会を開催する都市として、すべての市民が年齢、性別、障害の有無、国籍、宗教、文化的差異といったお互いの違いを違いとしてありのまま認めあい、誰もが安心・安全・快適に暮らせるよう、多様性への理解の促進に取り組むとともに、バリアフリーのまちづくりを進めます。

○主な取り組み

男女平等参画の意識啓発の推進【総務局】

男女平等参画について、性別や年齢にかかわらず幅広い市民に対して理解の定着をはかるため、あらゆる機会を通じて男女平等参画に向けた啓発や教育・学習を推進します。



イーブルなごやでの講座風景

福祉都市環境整備の推進【健康福祉局】

高齢者、障害者をはじめ市民の誰もが安全で快適に生活しやすく活動しやすい都市環境を築いていくため、ハード・ソフト両面からのバリアフリー化を推進します。



福祉都市環境整備指針

地域における情報の多言語化【観光文化交流局】

外国人市民に必要な情報を伝えるため、多様な言語・手段による情報提供と、外国人市民が身近に相談できる環境を整備します。



外国人相談窓口

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策1	人権が尊重され差別や偏見がない社会をつくれます
施策2	男女平等参画を総合的に進めます
施策28	バリアフリーのまちづくりを進めます
施策34	国際的に開かれたまちづくりを進めます

○まちの姿の実現に向けた成果指標

成果指標	現状値	目標値 (2030年度)
地域で国籍の異なる人と交流がある市民の割合	33.7%	40%
高齢者や障害者、子どもを連れた人などすべての人に使いやすい施設整備がされていると感じる市民の割合	41.3%	60%



大会で、活用した都市基盤、先端技術、危機管理体制などが、大会モデルとして未来に引き継がれることで、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能な都市になっている

アジア競技大会で拡大する交流人口を引き継ぐため、選手村・競技施設や交通ネットワークをはじめとする都市基盤について、リニア中央新幹線の開業を見据えるとともに、SDGsの理念を踏まえ、社会課題に対応した整備を進め、大会終了後もまちづくりやにぎわいの拠点になります。

また、安心・安全な大会運営を通じて危機管理体制が充実するなど、ハード・ソフトの両面から都市機能が強化され、大会の運営基盤やノウハウが蓄積されます。

さらに、大会で活用された先端技術が産業や市民生活に広く普及され、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化など、低炭素で循環型のまちづくりが促進され、強い産業力に加え、環境にも配慮されたまちが実現しています。

こうした取り組みが、大会モデルとして未来へ引き継がれるとともに、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能なまちとなっています。

■ 取り組みの方向性

- 1 大会モデルの構築
- 2 新しいモデルとしての選手村の構築と大会後のまちづくり
- 3 大会後の活用を見据えた施設整備
- 4 利便性や防災性、危機管理体制を備えた都市機能の強化
- 5 イノベーションの創出、先端技術の活用・普及

リニア中央新幹線の開業

令和9（2027）年に開業が予定されているリニア中央新幹線により、東京から名古屋への移動時間が現在の約100分から約40分へ大幅に短縮されます。その後、東京から大阪までの全線開業が見込まれており、東京・名古屋・大阪の三大都市圏が約1時間で結ばれ、7,000万人規模の世界最大の人口を有する巨大経済圏となるスーパー・メガリージョンが誕生します。

名古屋駅を起点に鉄道と道路で2時間以内にアクセスできるエリアの人口（2時間交流圏人口）は、品川－名古屋間の開業後には約6,000万人となり、品川駅起点の約5,200万人を追い抜き、全国最大となります。全線開通後も全国最大となることが見込まれており、さらなる交流の活性化が期待されます。

リニア中央新幹線の開業に向けた都心まちづくりに関するホームページはこちら



■ 取り組みの方向性

1 大会モデルの構築

質素・簡素・機能的・合理的な大会運営を行うことにより、国際総合スポーツ大会における名古屋モデルを構築し、大会の運営基盤やノウハウを本市に蓄積します。また、グリーンインフラの考え方を踏まえた取り組みを進めるとともに、先端技術の進展などの時代の潮流を見据え、再生可能エネルギーの導入、省エネルギーの推進など、環境にやさしい低炭素で循環型のまちづくりを進めます。

○主な取り組み

大会モデルの構築（第20回アジア競技大会等の推進）【総務局】

質素・簡素・機能的・合理的な大会運営をめざし、今後の先進技術の進展など、時代の潮流を見据えながら、開催都市としての運営準備を進めます。



第18回アジア競技大会の聖火台

水素エネルギーの利活用の推進【環境局】

利用段階で二酸化炭素を排出しない水素エネルギーの利用拡大をはかるため、家庭用燃料電池システム（エネファーム）や燃料電池自動車の普及を促進するなど、水素エネルギーの利活用を推進します。



次世代自動車の展示

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策24	身近な自然や農にふれあう環境をつくります
施策31	低炭素都市づくりを進めます
施策32	3Rを通じた循環型都市づくりを進めます
施策39	スポーツを活かしてまちの魅力と活力を高めます

将来の自動運転社会に向けた企業との連携・協力

本市では、快適な移動、環境負荷の低減、産業の振興、まちの魅力や福祉の向上等のため、本市域において、ICTを活用した、将来の自動運転社会に向けた先進的モビリティサービスの充実及び市民生活の向上のための先進的な取り組みの検討を企業と連携・協力して進めています。

<経緯>

2017年6月：トヨタ自動車株式会社と自動運転等の先進的なモビリティ技術の活用について相互に連携するための協定を締結

2019年2月：MONET Technologies株式会社と、ICTを活用した将来の自動運転社会の実現に向けた先進的モビリティサービスの充実及び市民生活の向上のための先進的な取り組みを検討するにあたり、相互に連携するための覚書を締結

MONET Technologies
のホームページは
こちら



2

新しいモデルとしての選手村の構築と大会後のまちづくり

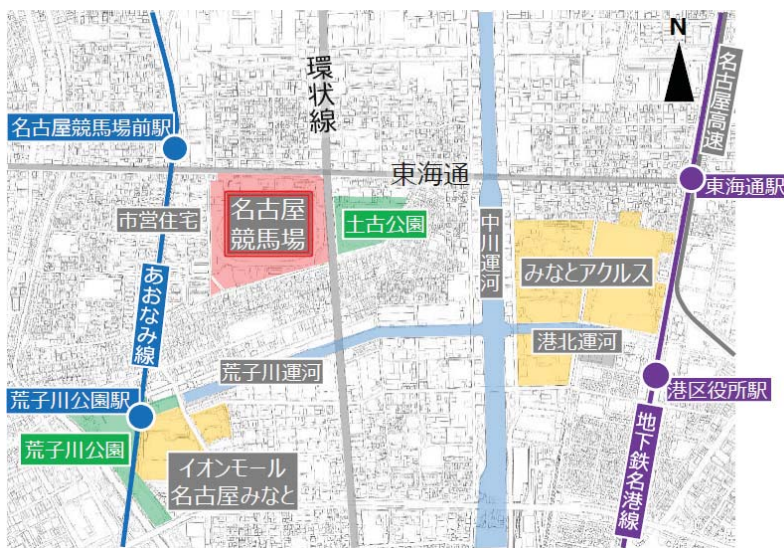
成熟都市である本市で開催するアジア競技大会の選手村の整備・運営の新たなモデルを構築するとともに、この機会を契機に、名古屋競馬場跡地や周辺地区のにぎわいと新たな地域ブランドの形成に向け、社会の変化に柔軟に対応し、災害に強いしなやかなまちづくりを進めます。

○主な取り組み

選手村の整備及び跡地を含めた港北エリアのまちづくりの推進

（第20回アジア競技大会選手村の整備及び大会後の跡地のまちづくりの推進、港北エリアにおけるまちづくりの推進）【総務局・住宅都市局・緑政土木局】

選手、役員が安心・安全・快適に滞在できる生活環境を提供するため、名古屋競馬場跡地に整備するメイン選手村の計画、整備を検討・推進します。また、将来を見据えたまちづくりが重要であるため、跡地や公園など既存のインフラの活用を含めた港北エリアのあり方について検討・推進します。



選手村予定地及び周辺の概況

【第18回アジア競技大会の選手村】



選手団の入村式



選手村のダイニングホール

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策24	身近な自然や農にふれあう環境をつくります
施策26	良好な都市基盤が整った生活しやすい市街地を形成します
施策39	スポーツを活かしてまちの魅力と活力を高めます

3 大会後の活用を見据えた施設整備

大会で活用する施設について、大会後も継続して大規模競技大会やイベント等の誘致・開催に対応できるようにするとともに、アスリートだけでなく、すべての市民が安心・安全・快適に利用でき、にぎわいの拠点などとなるように、その後の活用を見据えた環境整備を進めるとともに、効率的な運営に取り組みます。

○主な取り組み

瑞穂公園の整備【教育委員会】

各種のスポーツ施設を備えた総合運動公園である瑞穂公園が、アジア競技大会後も本市のスポーツ振興の拠点となるよう、体育館や陸上競技場をはじめとした施設整備を進めるとともに、市民の憩いの場や地域の防災拠点としての機能を視野に入れた公園全体の整備を推進します。



名古屋市瑞穂公園陸上競技場
イメージ

国際展示場の運営・整備【観光文化交流局】

MICEを推進するため、その基本インフラとなる国際展示場を管理・運営するとともに、拡大し多様化するMICE活動に対応し、MICE開催地として選ばれる都市となるよう拡充・機能強化を実施します。



名古屋市国際展示場新第1展示館
イメージ

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策38	観光の振興・MICEの推進と情報発信により交流を促進します
施策39	スポーツを活かしてまちの魅力と活力を高めます

4

利便性や防災性、危機管理体制を備えた都市機能の強化

大会で、充実した交通ネットワークなどに支えられた快適な大会運営や災害が発生した時に被害を最小限に抑えるための安心・安全な運営体制の構築をめざします。

また、大会を契機に拡大する交流人口に対応するとともに、2027年に予定されるリニア中央新幹線の開業も見据えながら、安心・安全で快適な都市空間の形成に向けて、高い利便性や防災性、充実した危機管理体制を備えた都市機能の強化を進めます。

○主な取り組み

名古屋駅ターミナル機能の強化【住宅都市局】

リニア中央新幹線の開業により形成されるスーパー・メガリージョンの中心拠点にふさわしい交通機能と空間機能を兼ね備えたスーパーターミナルの実現のため、駅へのアクセス性の向上や交通結節機能の強化、ユニバーサルデザイン等に基づく空間形成を実施します。



名古屋駅

名古屋駅・金山駅周辺の帰宅困難者対策の推進（帰宅困難者対策の推進、都市再生安全確保計画等の作成・運用）【防災危機管理局・住宅都市局】

大規模災害発生時において、公共交通機関の途絶により発生する帰宅困難者に伴う混乱を抑制及び解消するため、官民一体となり対策等を実施します。



帰宅困難者を想定した防災訓練

地下鉄駅の内装・照明などのリニューアル【交通局】

地下鉄が開業から60年以上経過していることを踏まえ、明るく清潔感のある快適・便利な駅空間を提供するため、駅全体の壁、床、天井、照明などのリニューアルを実施します。



地下鉄駅のリニューアルイメージ

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策16	災害に強い都市基盤の整備を進めます
施策17	防災・減災対策を進めるとともに、地域防災力の向上を支援します
施策18	市民の命を守る消防体制の充実強化をはかります
施策25	公共交通を中心とした楽しく快適なまちづくりを進めます
施策27	歩行者や自転車にとって安全で快適な道路環境を確保します
施策33	世界に誇れる都市としてふさわしい都心機能・交流機能を高めます
施策45	公共施設の適切な維持管理、保有資産の有効活用を進めます

5 イノベーションの創出、先端技術の活用・普及

大会を、国内外へ先端技術を発信する場として活用するとともに、大会を契機として、域内経済のさらなる活性化や持続的な成長につなげていけるよう、IoT、AI、ロボット、自動運転などの先端技術の活用・普及をはかり、経済・産業分野における絶え間ないイノベーションの創出を促進します。

また、多様な産業間の相互交流を進めるとともに、外資系企業、本社機能やICT企業などの戦略的な企業誘致を進めます。

○主な取り組み

新たな路面公共交通システム（SRT）の導入推進【住宅都市局】

SRT（Smart Roadway Transit）は名古屋駅や栄、名古屋城、大須など、都心部の魅力ある地域をつないで回遊性を高め、にぎわいを面的に拡大する新たな都市のインフラであり、2027年のリニア中央新幹線開業に向けて、段階的な導入を進めます。



SRTの走行空間イメージ

先進モビリティの社会実装（総合交通政策の企画推進）【住宅都市局】

自動運転をはじめとした先進的モビリティ技術について、公道実証実験や、自動運転を活用したラストワンマイル交通確保の社会実験・検証を進めます。



三の丸官庁街周辺における自動走行の公道実証実験

イノベーション戦略の強化・推進【市民経済局】

名古屋大都市圏の経済のさらなる発展をめざし、イノベーション活動のグローバル展開など企業の新たな価値の創造を促進するため、経済団体等との連携により企業の交流・共創を促すイノベーション拠点を設置・運営するとともに、戦略推進プランの策定や推進体制の構築、次世代の産業人材向けの教育、中小企業向けの支援事業等の調査・検討を実施します。



NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE
(ナゴヤイノベーターズガレージ)

○名古屋市総合計画2023における主な関連施策

施策25	公共交通を中心とした楽しく快適なまちづくりを進めます
施策41	新たな価値を創造する産業を振興するとともに、産業交流を促進します

○まちの姿の実現に向けた成果指標

成果指標	現状値	目標値 (2030年度)
新たに確保された緑の面積	41ha	480ha (12か年)
イノベーション創出件数	262件	2,380件 (12か年)

1 | アジア競技大会とは

アジア競技大会は、第2次世界大戦後まだ間もない1951年、戦禍によって引き裂かれたアジア諸国の絆を、スポーツを通じて取り戻し、アジアの恒久平和に寄与したいとの願いを込めて、インドのネルー初代首相の提唱により、日本を含む11か国の参加のもと、第1回大会がニューデリーで開催されました。

現在は、アジアのオリンピック・ムーブメントを推進するアジア・オリンピック評議会が、原則4年に1回開催しており、スポーツの公平な競争を通じて、スポーツ、文化、教育、国際的な尊敬、友情や平和など、さまざまな分野の振興・促進に寄与する一大イベントとなっています。

■ 過去大会実績及び今後の大会開催予定

回	開催年	開催都市	開催国	参加国及び地域	参加選手数
1	1951年	ニューデリー	インド	11	489人
2	1954年	マニラ	フィリピン	19	970人
3	1958年	東京	日本	16	1,820人
4	1962年	ジャカルタ	インドネシア	12	1,460人
5	1966年	バンコク	タイ	16	1,945人
6	1970年	バンコク	タイ	16	2,400人
7	1974年	テヘラン	イラン	19	3,010人
8	1978年	バンコク	タイ	19	3,842人
9	1982年	ニューデリー	インド	23	3,411人
10	1986年	ソウル	韓国	22	4,839人
11	1990年	北京	中国	36	6,122人
12	1994年	広島	日本	42	6,828人
13	1998年	バンコク	タイ	41	6,554人
14	2002年	釜山	韓国	44	6,572人
15	2006年	ドーハ	カタール	45	9,520人
16	2010年	広州	中国	45	9,704人
17	2014年	仁川	韓国	45	9,501人
18	2018年	ジャカルタ・パレンバン	インドネシア	45	11,300人
19	2022年	杭州	中国	—	—
20	2026年	愛知・名古屋	日本	—	—

2 | 第20回アジア競技大会

ア 概要

第20回アジア競技大会は、スポーツ界にとって東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の次なる大きな目標となり、拡大するアジアとの交流を一層深める機会となるなど、日本全体にとっても大変意義のある大会です。

日本では、昭和33（1958）年に第3回大会が東京で、平成6（1994）年に第12回大会が広島で開催され、第20回大会は日本で開催される3回目の夏季アジア競技大会となります。

会 期	令和 8（2026）年 9 月 19 日～10 月 4 日
開 催 都 市	愛知県・名古屋市
実 施 競 技	パリオリンピック（2024年）で実施される競技に加え、アジア特有の競技等を実施（40競技程度で調整予定）
メ イ ン 会 場	瑞穂公園陸上競技場
選 手 村	名古屋競馬場移転跡地のほか、県内で分散
参 加 者 数	選手団（選手、チーム役員）約1.5万人を想定
大会コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ◆アスリートファーストの視点 ◆既存施設の活用 ◆先端技術の駆使 ◆伝統と県民・市民性に触れるおもてなし ◆アジア競技大会の開催を誇りに、さらなるスポーツ文化の普及へ貢献

イ 競技会場

2024年のパリオリンピック競技大会で実施される競技に加え、アジア 5 地域での普及を考慮して決定される競技や愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会が提案する競技、OCA が提案する競技などで構成される競技プログラムを実施するため、県内の既存スポーツ施設を中心に活用します（一部競技については、県外の会場も予定しています）。

ウ 主な開催効果

大会の開催により、さまざまな効果が本市を含め愛知県全域にもたらされると考えられており、県内の経済波及効果は、1,625 億円になると試算しています。



◆経済波及効果の前提

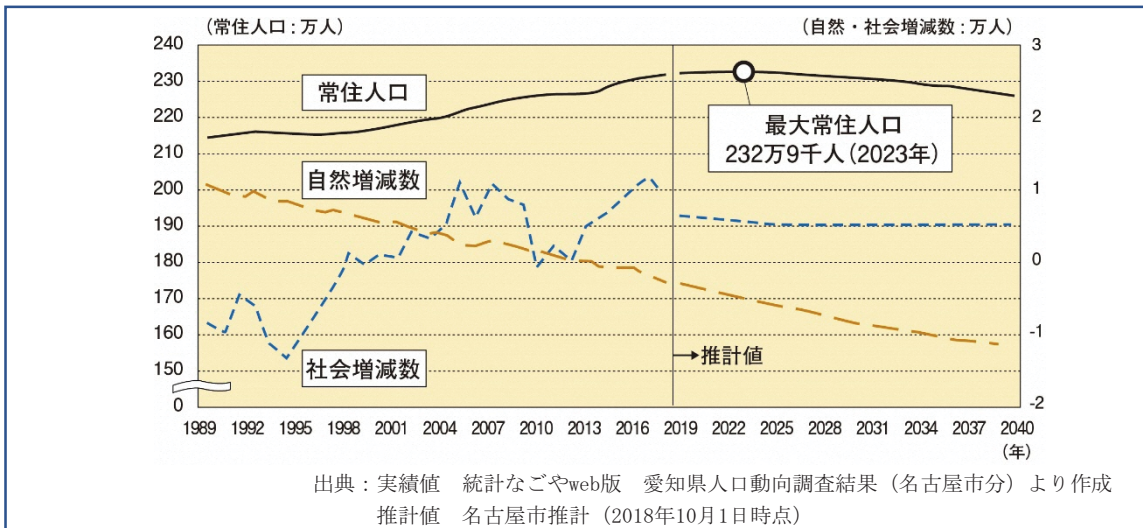
- ・投資支出 850 億円（大会主催者負担経費の額）
※施設整備費（仮設を除く）や関連インフラ整備にかかる支出は含まず。
- ・消費支出 大会観戦客の宿泊・飲食代など
※大会観戦客約 150 万人と仮定（第17回アジア競技大会（韓国・仁川）と同じ）

【平成29年度 アジア競技大会愛知・名古屋合同準備会の調査による】

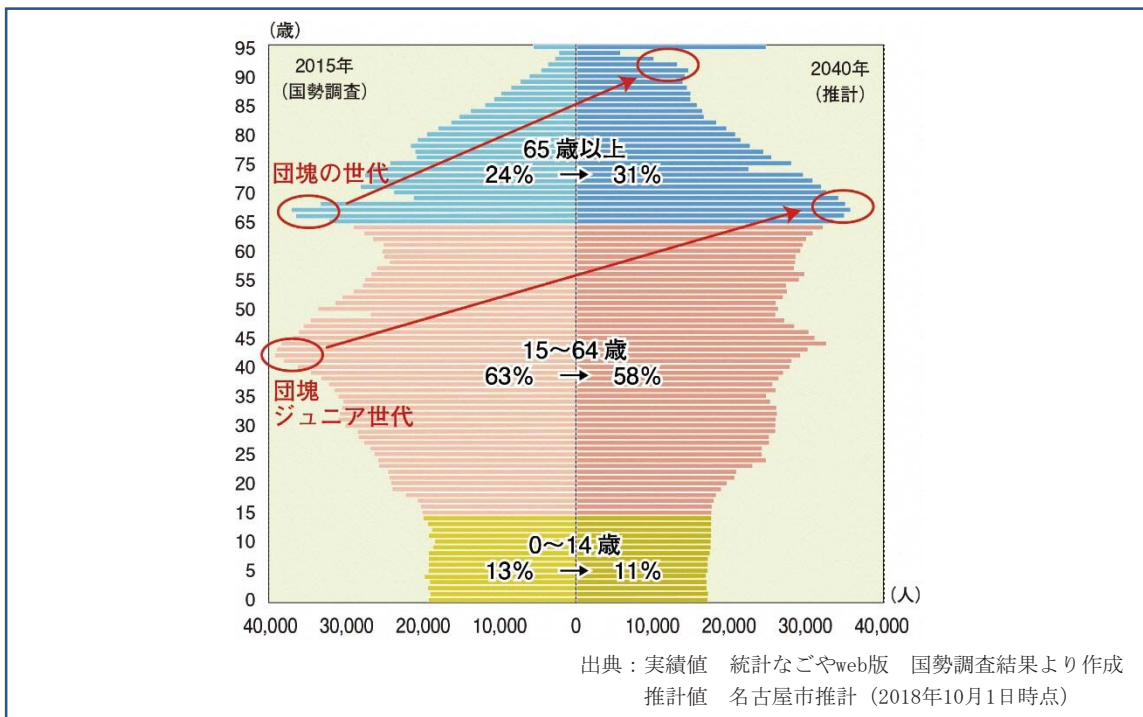
1 | 人口構造の変化

- 本市の常住人口は、自然減を上回る社会増により、増加傾向にありますが、長期的には少子化・高齢化に伴う常住人口の減少が予想されます。
- 少子化・高齢化の進行により、今後、本市の人口に占める15歳未満人口（子どもの数）や生産年齢人口（15～64歳の人口）の割合は減少すると見込まれる一方、65歳以上人口（高齢者の人口）の割合は増加が見込まれます。
- 少子化・高齢化の進行、生産年齢人口の減少に伴う経済活力の低下が懸念される中、都市の活力を維持・向上していくため、交流人口の増加をはかるとともに、年齢や性別などに関係なく、活躍できる環境づくりが必要です。

■本市における常住人口の推移と推計



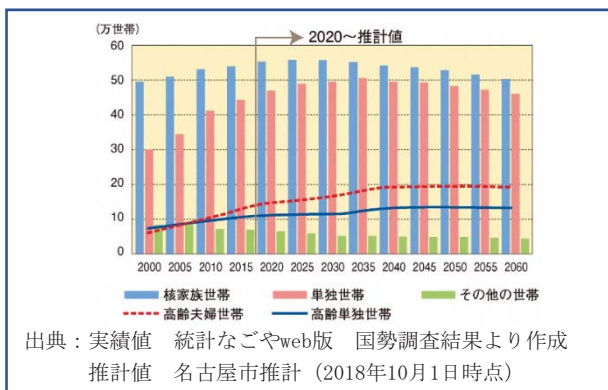
■本市の人口ピラミッド



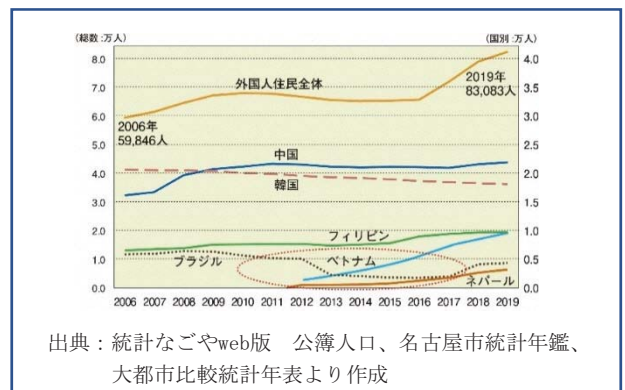
2 | 価値観・ライフスタイルの多様化

- 価値観やライフスタイルが多様化する中で、高齢単身世帯の増加が見込まれるなど、家族や世帯のあり方や人とのつながりが変化し、地域社会においてコミュニティの機能が低下しています。
- また、近年、外国人住民が大幅に増加するなど、国籍や民族をはじめ多様なバックグラウンドを持つ市民が増加しています。
- このような状況を踏まえ、ダイバーシティ（多様性）を重視し、誰もが一人ひとりの個性や多様な価値観・生き方を認め合い、安心して生活し、地域で支え合いながら活躍する環境づくりが必要です。

■本市における世帯の家族類型別一般世帯数



■本市の外国人住民の推移



3 | グローバル化・交流人口の増加

- 国が進める観光立国の取り組みや、社会のグローバル化の進展などにより、中部国際空港の2017年における年間入国外国人数は緩やかな増加傾向にありますが、成田国際空港や関西国際空港と比べると大きな差があります。
- 訪日外国人の訪問率も、東京都や大阪府に比べ大きく下回っています。
- 交流人口の拡大をはかる本市としては、アジア競技大会を契機として名古屋大都市圏を訪れる外国人観光客やビジネス客を増やすため、インバウンドの取り組みを推進する必要があります。

■全国の主要空港別年間入国外国人数の推移



■訪日外国人の都道府県別訪問率



4 | スポーツ、運動、身体活動の必要性

- 市民全体の6割近くが週1回以上の頻度で運動・スポーツに取り組んでいる状況ですが、30代では実施率が低いなど、性別や年代別によって差があります。
- 成人の1日の歩数は、各性別・年代において、個別計画である「健康なごやプラン21（第2次）」で定める目標値を下回っています。
- 運動や身体活動の量が多い人は、少ない人に比べて生活習慣病にかかりにくいことがわかっており、市民の運動や身体活動への関心や意識を高め、身体活動量を増加させることが重要です。

■性別・年代別 スポーツ実施率

性別	スポーツ実施率	年代別内訳							
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
男	57.6	62.5	54.8	47.4	53.2	59.0	61.3	68.3	49.0
女	56.5	53.8	54.7	44.3	48.6	58.5	58.2	71.5	55.2

出典：「名古屋市総合計画2018成果指標に関するアンケート調査」より名古屋市作成

■性別・年代別 1日の歩数

性別	年代	現状値（2015年）	目標値（2022年度）
男	20～64歳	8,452歩	8,500歩
	65歳以上	6,366歩	7,000歩
女	20～64歳	7,299歩	8,400歩
	65歳以上	4,049歩	6,900歩

出典：「健康なごやプラン21（第2次）中間評価」より名古屋市作成

5 | 公共施設の老朽化

- 本市は、学校・市営住宅や道路・河川・公園・上下水道などのさまざまな公共施設を保有しています。これらの多くは、戦後の急激な人口増加や高度経済成長に伴う社会的ニーズなどに対応するため、昭和30年代から60年代を中心に整備されており、経過年数の増加に伴う修繕や改修などが必要となります。
- 第20回アジア競技大会のメイン会場となっている瑞穂公園陸上競技場のほか、競技会場として使用予定の東山公園テニスセンター、メディアセンターなどに使用予定の名古屋市国際展示場などについても、老朽化への対応やアジア競技大会の開催に向けた整備が必要となります。
- 大会で使用する施設については、大会時の使用だけを考えて修繕や改修などを行うのではなく、その後の活用を踏まえ、アジア競技大会後の大会運営に携わる各競技団体との協議を行うとともに、大会後の市民利用や大規模競技大会の誘致等も視野に入れ、対応を検討することが求められます。

6 | 自然災害に対する懸念

- 南海トラフを震源とする大規模な地震の発生確率が今後30年間で70～80%と切迫度を増しています。
- また、地球温暖化の進行に伴い、記録的な豪雨が発生する頻度も顕著に増加しています。
- 本市が被災した場合、地震や豪雨による直接的な被害に加え、大量の帰宅困難者が発生する恐れがあり、交通結節点における混乱も懸念されます。
- アジア競技大会を開催し、国際的な交流拠点をめざす本市にとって、災害に強い都市基盤の整備に取り組むとともに、発災時の被害を最小限におさえることができるよう、対策に取り組んでいく必要があります。

7 | 経済・産業を取り巻く環境の変化

- 産業を取り巻く環境は、IoT、ビッグデータ、AIなどの急速な発展やロボット、自動運転、燃料電池自動車などの技術革新の進展により急速に変化しています。
- 本市の事業所数は東京都特別区部や大阪市に次ぐ規模となっています。また、ICT企業の集積が東京都に比べて弱いのが現状です。
- 本市は、ものづくり産業を中核とする名古屋大都市圏の中核都市として、激化する都市間競争に打ち勝つために、アジア競技大会を契機として、今後の世界経済の大きなウェイトを占めると見込まれるアジア諸国との連携や産業交流を深めるとともに、先端技術を積極的に取り入れ、新たな価値を創出し続けることで、本市及び圏域の持続的な成長をはかることが重要です。

■ ICT企業の集積の比較

区分	事業所数	構成比（全国比）
愛知県	1,422事業所	6.4%
東京都	6,725事業所	30.4%
大阪府	2,173事業所	9.8%
全国	22,143事業所	100.0%

出典：2016年経済センサス（ソフトウェア業及びインターネット附随サービス業）より
名古屋市作成

参考 3

用語解説

用語	頁	解説
あ行		
IoT	24,30	Internet of Thingsの略。モノのインターネット。コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在するさまざまな物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。
アクティブライフ	5,6	運動・スポーツのほか、レジャー、家事や階段の昇り降りなど日常生活における身体活動を通じて体を動かし、気軽に楽しく活動的な生活を送るライフスタイル。
アジア・オリンピック評議会	25	アジア競技大会の主催者。クウェートに本部を置く。2019年4月現在、45の国や地域のオリンピック委員会が加盟。略称はOCA。
イノベーション	19,24	従来の考え方にとらわれない自由な発想で、新たな価値を生み出し、人々の生活に劇的な変化をもたらすこと。
インバウンド	9,14,28	外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。
AI（人工知能）	24,30	Artificial Intelligenceの略。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術。
SRT	24	Smart Roadway Transitの略。技術の先進性による快適な乗り心地やスムーズな乗降、洗練されたデザインなどのスマート（Smart）さを備え、路面（Roadway）を走ることでもちの回遊性やにぎわいを生み出す、今までにない新しい移動手段（Transit）の呼称。
オリンピック・ムーブメント	25	オリンピズムとオリンピズムの価値によって実践されるスポーツを通じ、若者を教育することにより、平和でより良い世界の構築に貢献すること。なお、オリンピズムとは、スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するもの。
か行		
外国人市民	18	名古屋市内に住所を有する外国籍の人のほか、日本国籍を取得した人や国際結婚によって生まれた子どもなど外国の文化を背景に持つ人など、外国にルーツを持つ人。
外国人住民	28	名古屋市内に住所を有する外国籍の人。
グリーンインフラ	20	自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を積極的に活用して、さまざまな効果を得ようとする取り組み。
グローバル	15,17,24,28	世界的な規模。国境を越えて地球全体にかかわること。人、物財、情報の国際的移動が活性化して、さまざまな分野で「国境」の意義が曖昧になるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象。
経済波及効果	26	ある産業に需要（消費や投資等）が発生したとき、その産業の生産を誘発するとともに、次々と他産業の生産も誘発していく経済活動の波及のこと。
健康寿命	6,8	本ビジョンでは、介護保険の情報に基づく「日常生活動作が自立している期間」とする。
交流人口	1,14,19,23,26,27,28	国内外からの旅行者や短期滞在者など、その地域を訪れる人のこと。

用語	頁	解説
さ行		
再生可能エネルギー	19,20	永続的に利用することができる再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。具体的には、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマスなどをエネルギー源として利用することを指す。
3 R	20	「Reduce = リデュース（発生抑制）」「Reuse = リユース（再利用）」「Recycle = リサイクル（再生利用）」の3つの頭文字をとった言葉で、ごみ減量のために必要な取り組みを表す。
循環型都市	20	本市がめざす環境都市像の1つであり、「廃棄物などの発生抑制や資源の循環活用、適正処理が促進され、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が最小限に抑えられているまち」をいう。
スーパー・メガリージョン	19,23	東京、名古屋、大阪はメガリージョンと呼ばれる大都市圏域を形成しているが、スーパー・メガリージョンは、その三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ、リニア中央新幹線全線開業により一体化し形成される世界最大の人口を有する巨大経済圏のこと。
スポーツコンベンション	10	スポーツ大会のこと。
スポーツツーリズム	10	スポーツを「みる」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「ささえる」人々との交流など、複合的で豊かな旅行スタイルの創造をめざすもの。
スポーツプロモーション	10	スポーツの普及・促進、発展。
た行		
ダイバーシティ	26,28	「多様性」のこと。性別や国籍、年齢などに関わりなく多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。
低炭素都市	20	本市がめざす環境都市像の1つであり、「自然エネルギーなどの利用が促進され、ライフスタイル・ビジネススタイルの省エネルギー化が進むなど、少ないエネルギー消費で快適な生活ができるまち」をいう。
な行		
名古屋大都市圏	24,28,30	本ビジョンでは、名古屋を中心におおむね30～50kmの範囲としつつ、産業、観光、防災など分野ごとに柔軟に捉えることとする。
燃料電池自動車	20,30	水素と酸素を化学反応させて電気をつくる燃料電池を動力源とし、走行中に排気するのは水だけの、環境や資源に負担をかけない自動車のこと。
は行		
ビッグデータ	30	ボリュームが膨大でかつ構造が複雑であるが、そのデータ間の関係性などを分析することで新たな価値を生み出す可能性のあるデータ群のこと。例えば、ソーシャルメディア内のテキストデータ・画像、携帯電話・スマートフォンが発信する位置情報、時々刻々と生成されるセンサーデータなどがある。
ホスピタリティ	9	本ビジョンでは、「地元の人々が旅行者を迎え入れる際に有するおもてなしの心」とする。

用語	頁	解説
ら行		
リニア中央新幹線	1,19,23, 24	全国新幹線鉄道整備法に基づいて計画された、東京都を起点、大阪府を終点とする新幹線鉄道。平成23年5月に決定された整備計画において、走行方式は超電導磁気浮上方式（超電導リニア）とし、最高速度は505キロメートル／時とすることが定められた。

1 | 主な経緯

	日付	事項	備考
平成30年度	6月4日	第1回有識者懇談会	大会を契機として本市がめざすべきものについて意見交換
	11月15日	第2回有識者懇談会	まちの姿を実現するための取り組みの方向性、ビジョンの理念及び題名について意見交換
	1月21日	第3回有識者懇談会	まちの姿と取り組みの方向性について意見交換
	2月7日	学生意見交換会	大会を契機として本市がめざすべきまちの姿とその実現方法について意見交換
	3月18日	第4回有識者懇談会	中間案（素案）について意見交換
令和元年度	4月22日	第5回有識者懇談会	ビジョン案（素案）について意見交換
	6月5・6日	所管事務調査 （2026アジア競技大会 NAGOYAビジョン（案）について）	都市活力向上特別委員会（6月5日） 総務環境委員会（6月6日）
	7月1日から 31日まで	パブリックコメント実施	—
	9月2日	市民のご意見及び市の考え方 公表	—

<学生意見交換会概要>

日 時：平成31年2月7日（木）13時～15時30分

場 所：名城大学ナゴヤドームキャンパス西館2階 社会連携センターshake

参加者：県内6大学の学生23名

内 容：大会を契機として「将来の名古屋がどんなまちになってほしいか」をテーマに
意見交換

2 | 第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会

<開催概要>

回	開催日程	議題内容
第1回	平成30年6月4日(月) 16時30分～17時30分	アジア競技大会を契機として本市がめざすべきものについて
第2回	平成30年11月15日(木) 10時～12時	ビジョンにおける「まちの姿」を実現するための取り組みの方向性、ビジョンの理念及び題名について
第3回	平成31年1月21日(月) 13時～14時30分	「まちの姿」及び取り組みの方向性について、委員の追加について
第4回	平成31年3月18日(月) 13時～15時	名古屋市レガシー・ビジョン（仮称）中間案（素案）について
第5回	平成31年4月22日(月) 9時30分～11時30分	名古屋市レガシー・ビジョン案（素案）について

<委員名簿>

（敬称略 50音順）

氏名	分野	役職等
板倉 健（いたくら けん）	経済	名古屋市立大学経済学研究科教授
岡田 亜弥（おかだ あや）	国際/多文化共生	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
奥宮 正哉（おくみや まさや）	環境	名古屋大学大学院環境学研究科教授
◎原田 宗彦（はらだ むねひこ）	スポーツマネジメント	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
福島 茂（ふくしま しげる）	まちづくり	名城大学都市情報学部教授
藤原 直子（ふじわら なおこ）	多様性	椋山女学園大学人間関係学部教授
松村 亜矢子（まつむら あやこ）	健康とスポーツ	中部大学生命健康科学部講師
矢野 卓真（やの たくま）	産業技術	名古屋工業大学産学官金連携機構准教授
○來田 享子（らいた きょうこ）	スポーツと教育	中京大学スポーツ科学部教授

◎：座長、○：副座長

3 | パブリックコメント

<実施概要>

(1) 募集期間

令和元年7月1日（月）から31日（水）まで

(2) 閲覧・配布場所

ア 本冊子

市公式ウェブサイト、市民情報センター、各区役所情報センター、支所、各区図書館などにおいて閲覧用に配架

イ 概要版

市公式ウェブサイト、市民情報センター、各区役所情報センター、支所、各区図書館、地下鉄各駅などにおいて配布

(3) 提出状況

意見提出者数 7人（FAX 4人、郵送 2人、メール 1人）

意見件数 13件

(4) 意見の内訳

項目	意見件数
第20回アジア競技大会に関すること	1件
まちの姿1 健康・地域活力に関すること	6件
まちの姿2 魅力・誇りに関すること	4件
まちの姿3 国際交流・多様性に関すること	1件
まちの姿4 イノベーション・持続可能性に関すること	1件
合計	13件

2026アジア競技大会 NAGOYAビジョン

— アジアとともに輝く未来へ —

発行・編集 名古屋市総務局総合調整部
アジア競技大会推進室
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 052-972-2231
FAX 052-972-4205

発行年月 令和元年10月

アジア競技大会推進室
ホームページはこちら

